

卷頭言

「高等学校における数学教育の意義を受けて」

数学部会長 弓削 直樹

本年6月に開催されました数学部会春季総会において、渡邊茂通先生のあとをお引き受けすることになりました。不安な気持ちを払拭しきれないでいますが、先生方のお力添えによって、何とか責を果たしていきたいと考えていますので、よろしくお願いいたします。

本日、数学部会誌「 $\alpha - \omega$ 」第51号をお配りすることができました。「 $\alpha - \omega$ 」は、創刊された昭和38年から途絶えることなく毎年発刊され、昨年度でたく第50号を発刊することができました。これについては、編集委員の先生方の御尽力があつてのことであることは申すまでもありませんが、日頃、熱心に研究活動を続けておられる先生方から、貴重な研究成果を寄稿していただけたことが大きな要素となっています。「継続は力なり」と言われますが、半世紀にわたって継続して刊行されてまいりましたことは、本数学部会の力がいかに大きなものであるかを示していると言えるでしょう。これからも、この「 $\alpha - \omega$ 」が皆様の御協力により、更に充実した内容で埋め尽くされますよう期待しております。

さて、各高等学校では、学習指導要領の改訂に基づいて新しい教育課程が今年度の入学生から年次進行で実施されていますが、数学科については理科や理数科とともに昨年度の入学生から先行して実施されています。教育課程実施状況調査や国際的な学力調査の結果から導かれた課題を踏まえて、「数学的活動を一層充実させ、基礎的・基本的な知識・技能を確実に身に付け、数学的な思考力・表現力を育て、学ぶ意欲を高めること」が示されています。そして、数学の学習を通して、数学的な見方や考え方のよさなどの数学のよさを認識させ、将来の学習や生活に数学を積極的に活用できるようにするとともに、知的好奇心や豊かな感性、健全な批判力、直観力、洞察力、論理的な思考力、想像力、根気強く考え続ける力などの創造性の基礎を養うこと、論理的に自分で判断する力を育成することなどが特に大切になりました。

各学校現場におきましては、これらを踏まえた様々な新しい取組が求められていますが、改訂の趣旨を十分に理解されないまま、従来と変わらない数学教育を展開している方はいないでしょうか。多くの先生方が改訂の趣旨を踏まえ、数学の学習が単に内容の習得にとどまるのではなく、数学的活動を重視して、生徒の人間形成に資する数学教育を展開していただくことを切望しております。

終わりに、本数学部会の主な行事は、総会・研究会・見学研修会等であります。できるだけ多くの先生方に参加していただき、お互いにより良い刺激を受けていただきたいと思います。そして、先生方のより一層の資質の向上と、高等学校数学教育の発展を心より御期待申し上げます。